

## 海外安全官民協力会議 第35回幹事会開催結果

1. 日 時 平成22年7月2日(金曜日)午後4時～午後6時

2. 場 所 外務省 会議室

3. 出席者 幹事会メンバー 21名(合計23人)

オブザーバー 2名

外務省領事局海外邦人安全課長 天野 哲郎

領事局邦人テロ対策室長 鈴木 光太郎

領事局海外邦人安全課邦人援護官 秦 義昭

### 4. 会議次第

(1) 最近の事件・事故について(タイでの騒擾事件、中国における麻薬犯罪)

(2) 最近のテロ情勢

(3) 質疑応答・意見交換

### 5. 議事要旨

(1) 最近の事件・事故について 天野海外邦人安全課長

#### <タイでの騒擾事件>

最近の事件・事故ということで先般のタイの騒擾事件について考えてみると、現在のところは落ち着きを取り戻しているといえる。他方、潜在的には、反政府デモ隊と政府治安部隊との衝突の原因になった問題点というのは、解決に至っていない状況である。今後こうした問題の解決には時間がかかると思われる。外務省としても、現地公館と連絡を密にしながら、情勢を注視しているところである。

今のところ、落ち着きを取り戻しており、何か起きるような状況かということもそうでもなさそうだが、まだ非常事態宣言が解除されたわけではないので、引き続き何か起きてもおかしくはないということは、治安当局側も思っているのではないかと。

私の歴代のポストにいた人間が想像しなかったと思うが、今般、あの穏やかなタイのバンコクに対して一時的とはいえ渡航延期勧告を発出したことは、おそらく長い邦人保護の歴史の中でも特筆されることになるだろうと考える。そういう意味では、非常に記憶に残る大きな事件となった。

今回の事態では、大変残念なことに、日本人の報道カメラマンが1名死亡する事態が現実が発生した。また、バンコクで大使館のスタッフが一時的にせよ大使館から避難する事態ともなり、非常にショックな出来事だった。タイですらああいう状態になるということを見ると、世界中どこで何が起きてもおかしくないという状況になってきたと改めて感じる。これまでは、限られた場所でのしか起きなかったが、最近は自然も政治もそうだが、今後どうなるのかというのは興味深いものがある。それだけに、駐在員の方々においては、いつ何が起きてもおかしくないということを自覚し、「大丈夫だろう」という甘い見方ではなく、十分に安全に注意してほしいと考える。

今回のタイでの騒擾事件を通じて我々は大変大きな教訓を得たので、経験を共有していきたいと考える。バンコクのような在留邦人が多数滞在する大都市でも大規模な騒乱、政治闘争が発生するということであらためて教えられた。我々としてもできるだけ、海外安全ホームページを活用し、スポット情報その他を通じて情報を出した。また、在タイ大使館からも何十本という情報を出した。バンコクにおいては、他の都市とくらべても、日頃の日本人会、商工会の連絡網の整備状況がよく、今回の事態では非常に役にたった。

また、いざというときの対応としては、今回、急に状況が悪化して事前に避難ができず、気がついたら動きがとれなくなってしまったというケースも一部で発生しており、そうした状況では、逆に移動すること自体が危険という場合もある。そうした状況に備え、自宅やそれぞれの企業の事務所において、日頃から一定の備蓄品の準備をお願いしたい。

#### < 中国における麻薬犯罪 >

次に、中国における邦人の麻薬犯罪について述べる。現在、麻薬の密輸をし

ようとした疑いで、逮捕された方が何人もいるが、そのうち分量が多かったために死刑判決を受けていた4名に対する死刑が執行されたことは、新聞等でも大きく取り上げられ日本国内の関心はかなり高かった。

現在、麻薬犯罪に死刑を科している国は、中国だけでなく、東南アジアの国でも多く存在する。

邦人も多く渡航する国もあるため、くれぐれもそうした事態に巻き込まれないようにご注意ください。特に本人が中身を知らずに荷物を預けられて持って入ったという場合でも残念ながら、言い訳は通じないのが通常である。外国へ行って飛行機に乗るときや降りたときは、「ちょっとすいませんがこれを預かってください」ということがあっても、絶対に応じないようお願いしたい。そういう状態になると「私は知らなかった」といっても、ほぼ通じない。出張の方々にそういう事態がおきないように、くれぐれも注意していただきたい。

## (2) 最近のテロ情勢

鈴木邦人テロ対策室長

米国ニューヨークで、タイムズスクエアでの爆破テロ未遂事件が発生した。報道では、犯人は結局拘束されたが、パキスタンからやってきて10年くらい米国に住んだ裕福な人で、米国籍をとった者との由。また、自供の中で、パキスタンで今非常に危険な状態になっている地域出身で、そこで訓練を受けたと供述したとされている。

当時の現場の声として、未遂に留まらず実行されていれば大惨事になっていたという声が聞こえたので、実際に発生した際の規模について考えてみる。報道を見る限り、プロパンガスやガソリンタンクを車両いっぱい積んでおり、多くの通行人が死傷する可能性はもちろんあった。しかし、ビルが倒壊したりするとかそういう規模の話ではおそくないという印象を持っている。

それより重要というか注意すべきと思われるのは、やはり米国本土でテロをやろうという意図がいまだにあり、それを実行に移す企てが発生しているということをお我々は念頭に置かなければならないと考える。

クリスマスに米国に向かう航空機の中で爆破未遂事件があった。事前に周到な準備をして、長期的に潜り込んでいた少数の人間が細かいオペレーションを

したということであり、注意が必要である。

パキスタンやアフガニスタンで戦っている人間がいれば、そこでの戦いにとどまらず、なんとかして敵であるところの米国の本土あるいはそこに近いところで一矢報いたいという動きがあると考えざるを得ない。

ご承知のように航空保安に関しては9・11以降、各国政府の関係するすべての機関のあらゆる努力がつぎ込まれているので、頻繁にはテロが起きない体制にはなっている。しかし、そういう意図がある以上引き続き米国本土ないしはそれに近いところで、この種の企てがこれからも出てくる可能性はあると考えている。

次に、インドにおいて鉄道を標的としたテロが発生した。西ベンガルで発生しており、調べるとこの辺ではこれまでも列車に対するテロが起きている。インドの田舎で電車が爆破されても、たまたまバックパッカーが乗っていない限りは大丈夫だと思っていたが、この事件の場合は、現地公館に確認したら、駐在員の方が移動に普段使っている路線ということだったので、スポット情報の形でお知らせをした。

この事件もターゲット性はよく分からず、そもそも貨物列車を狙い特急列車を狙うという意図まではなかったとの報道があるが、もう一度ここで思うのは、列車というのは守る側にとっては非常にいやな攻撃対象であって、たまたまそれに乗り合わせていけば、高速で走っているので、直撃されなくても列車の脱線によって被害は非常に大きくなるということである。また攻撃されれば閉鎖空間であるため当然中に乗っている人に対しては脅威が強いものとなる。

もうひとつは、列車は長距離の線路を走っているわけで、その線路全部に渡って点検・警戒することは容易ではない。日本のように鉄道の安全が確保されているというのはかなり奇跡的な話である。外国においてこれを狙うこと自体、すなわち鉄道をやるうという目の付け所があるということについては、気をつけなければいけない。

言ってみれば、貨物列車に対する置き石といった脱線サボタージュはそれこそ大昔から、鉄道が発明された時代からある手段であり、第一次・第二次大戦中のレジスタンスでも用いられた古典的な手法ではあるが、そういうことは途上国においてやる気（意図）さえあれば、継続して簡単にできる。そのあたりも気をつけなければいけないと考える。

最後に、海賊関連だが、一昨年、昨年と情勢は悪化していった、昨年の前半までは海賊対策ということで新聞も大きく報じていた。昨年になって、自衛隊の護衛はじめ各国海軍の努力と仕組みがかなり本格的に起動し安定して運用されるようになってきたという状況もあり、落ち着いて来ている雰囲気が出てきたが、実数の方は昨年を通じて増え続けている。今年に入って上半期だけを見ると、数的にはやや減っているが、それでも高い水準にあるということは確か。

さらに憂慮されるのは、発生海域の拡散傾向が止まらないということである。北東に発生地点が伸びていて、わりとインドに近い北のところまで及んでいるということで、紅海ないし、アラビア半島の南岸の方向だけを警戒するというやり方では対応できない、それより手前のところでやられるケースが出てきている。

幸いにして、日本の方が亡くなったり怪我をされたということにはまだなっていないが、引き続き、船舶に対する脅威が高いということは認識していきたいと思っている。

(了)